

2016年10月1日発行 http://iidalaw.net/norikura.html

もっと乗鞍岳のことを知ろう[その8]

木下 喜代男

この夏もいくつかの谷を遡った。初めて入る谷もあり、未知へのあこがれを満足させることができた。しかし沢登りのシーズンはいたって短く、9月に入ると水が冷たくなるので、中旬頃くにはもう店じまいとなる。

乗鞍岳の谷5-徳河(とくごう)谷

・いちばん長大で原始の姿をとどめてい る谷

・ 遡行月日 2014年9月13日(土) ~14日(日)

・同行メンバー 古守博明さん、諏訪隆 広さん(両名とも飛騨山岳会員)

9月13日(土)晴れ

雨続きだった8月が終わったらとた んに秋風が吹きはじめ、今年の沢登り

乗鞍岳・飛騨側の谷概念図(一部) 長野県 漁力 (東京県) (東

シーズンはもう終わったと思っていたら、古守さんからお誘いがあった。乗鞍岳の千町尾根から南西の飛騨川へ落ちている長い谷である。地図を見ると、谷の半分くらいに毛虫模様(岩のガケがある印)がついていて、これはハラハラドキドキ感が味わえるとすぐ食指が動き、同行をお願いした。昔笠ヶ岳西面の笠谷などへ入っていたのは、真夏の岩登りシーズンが終わったこの9月中旬の連休だったが、今よりだいぶ暑かったような気がする。今年の気温の低さは特別なのだろ













う。メンバーはいずれも今夏雨で断念した黒部上ノ廊下行の隊員。まず車1台を下山ルートの九 蔵谷林道のほうに置いてから、徳河谷左岸の林道に乗り入れる。この森林管理署の林道は最近使っ

ていないらしく、ゲートのだいぶ手前で崩壊していたため車を停め、下部のいくつかの砂防堰堤が終わるあたりまで歩く。この林道は全体に崩壊がひどい。急な斜面を下降する。予想どおり、大岩壁が続くゴルジュ帯の中にいくつもの美しい滝があり、期待していたクライミングを楽しむことができた(写真 1)~(写真 6)。

なかには泳いで取り付かねばならない滝もあった。この日は二 俣の手前で時間切れとなり、谷沿いの少し高いところに各自ツエルト、テントを設営。このところ日帰りばかりだったので、沢での宿泊は久しぶりだった。焚火が得意な諏訪さんの指図で流木を拾い集め、河原で火を焚く(写真7)(写真8)。

焚火正統派の彼の焚きつけはやはり樺の樹皮で、着火剤など使わない。明治、大正期の登山紀行を読むと、猟師である案内人が、雨の中でもハイマツなどの生木ですぐに火をおこしている。猟師たちは懐に樺の樹皮を入れていて、どんな条件下でも焚火ができなければ一人前でないとされていたのだ。久々に満天の星空の下





で贅沢な焚火を囲み、酒を飲んで談笑するという、「正しい沢登り」となった。

<参考タイム>林道駐車場所 8:20 入渓 10:10 露営場所 16:00

9月14日(日)晴れ

今日も晴天。この連休はどこの有名山もたいへんな混雑であろうが、この広い谷は今日も我々だけの貸し切りのようだ。河原で朝食。沢はまだ水が冷たいので朝はゆっくりだ。谷は上部で二つに分かれるので、九蔵尾根側の左俣へ入る。途中から見事な柱状節理の大きい岩壁が現れ、その上に落ちている 40m くらいの見事な大滝があった(写真 9)。

同行のお2人より多少岩登りの経験がある私は、柱状節理の段をうまくたどれば難なく登れる と見たが、なにせ年寄のチームなので無理をしないことにし、右を巻いた。

さらに上部へ進み、下山路のことを考え、途中で左の急な枝沢に入ることにする。沢は意外と 尾根近くまで続き、上部で少し笹を漕ぐと復興された信仰の道 = 「太郎之助みち」に飛び出た。千 町ヶ原の少し下だ。

この道は明治初期、旧朝日村の上牧太郎之助が途中88箇所に石仏2体ずつ設置しながら乗鞍岳までの登拝路を拓いたが、その後廃れ石仏も埋もれてしまっていた。約10年前からこの道の復興、石仏探索に関わってきた市職員の古守さんから説明をうけ、石仏を拝みながら下ったが、下部には巨木の樹林帯があり、御嶽山も見えて、歴史を感じさせる道だった。登山口の鳥居前で山の



霊にお礼を言ってから、林道を歩いて駐車場所へ。

これで今年7回目だった文字通りの「年寄りの冷や水山行」は無事終了した。すばらしいゴルジュ 帯、沢での宿泊、焚火、帰路は信仰の道と、今年の沢納めにふさわしい山行であった。この年に なれば、低山歩きや小屋泊り山行になるのがおきまりだが、こうしてまだ刺激的な、登山本来の 楽しみを満喫できる山行をすることができ、まことにありがたいことである。

<参考タイム > 露営地出発 7:00 登山道 11:30 ~ 12:00 駐車場所 16:00 ※お楽しみいただいている本シリーズ、通し番号が間違っていました。前号の [その 6] は [その 7] の誤りでした。従って今回は [その 8] となります。訂正しお詫びいたします。

「乗鞍自然観察会」大黒岳でライチョウに会う

岡上 幸子

凄まじい風に煽られ激しく叩きつける雨粒。「飛騨と乗鞍岳の自然を考える会」に入って初めて 参加する自然観察会は、開始早々とてもヘビーなのであった。それでも予定通り大黒岳に向けて 出発。ゴアテックスの合羽は雨風通さないはずなのに、そんな期待はすぐに裏切られる。せめて

視界だけでも確保しようと思ってさした傘はあっという間に骨がバキバキ。それでも参加者全員がライチョウ目指し、張り切って登って行った。

ライチョウを一目見ようと意気込む私たちだったが、引率の直井さんから「姿を探すことと同時に、**生息の痕跡を見つけることが大切**」とのレクチャーを受け、ライチョウの姿ばかり追っていた視線を足元に移す。大黒岳への急な登りが終わり、なだらかな稜線に出たところでライチョウの砂浴び場を発見。頂上までの間に直井さんが4か所の砂浴び場を確認し、その内1か所からは勾玉型の



糞も見つかった。そして頂上の休憩小屋直下には、ついにオスのライチョウが姿を現す。夏羽の姿でソワソワと歩き回る様子から、多分あぶれオスではないかとの説明を受ける。そんなちょっと情けない姿のあぶれ君ではあったが、冷えきって疲労した私たちは「来た甲斐があったね!」「ライチョウに会えて良かった!」と顔がほころぶ。ついさっき直井さんのレクチャーを受け、もっともらしく頷いていた私たちだったが、やはり素人はウンコよりも生ライチョウに出会えると嬉しいのであった。

名古屋から飛騨に移り住んで約30年、美しい自然に恵まれて生活してきた。自宅回りは今でも



充分素晴らしい環境だが、近年は問題も目に付き はじめている。以前は姿を見ることのなかったシ カが畑を食い荒らし、オオハンゴンソウが過疎の 村を黄色く彩る。雨が降ればたちまち豪雨となり、 一昨年は家庭菜園の畑が川に飲み込まれ、川は姿 を変えた。

それでも北アルプスに登れば圧巻の自然が待ち構えている。また、かなりの確率でライチョウにも出会えるため、特別天然記念物とはいっても生息数はそれなりに多いのだろうと思っていた。でも実際は推定生息数が日本中で約3000羽とのこ

と。たったの3000羽?何となく心がざわつく。自分に何かできることはないのかと考える。

今回の観察会に参加したおかげで、直井さんに約20年ぶりでお会いできたことが嬉しく、たくさんお話をうかがった。うちの裏山で営巣しているクマタカのこと、近所の田んぼに毎年飛来するオシドリ夫婦のこと、6月の初旬に行われた御嶽山でのライチョウ生息調査のこと。そして、わからないこと知らないことを、たくさん教えていただいた。一つ一つ覚えていって、微力ながらも環境保護活動の末端につながっていければと思う。

今年、富山県が「**ライチョウサポート隊**」というボランティアを募っていたので登録をした。活動内容は、保護柵の設置、生息地のパトロール及び啓発活動、生息情報の収集、生態調査支援等。富山雷鳥研究会指導のもと、立山エリアを中心に行う。当初は希望した生態調査支援の人選から漏れていた私だったが、欠員が出たとのことで参加の要請がきた。とても嬉しい。この経験を地元での活動に役立てられるよう、張り切って学んでこようと思う。

水生昆虫調査の報告

松崎 茂



7月17日、当会では初の試みである水生昆虫の調査をしました。水生昆虫とは、一生または幼生期を水中で過ごす昆虫のことで、トンボやカゲロウ、カワゲラ、ホタルなどが代表的なものです。これら水生昆虫を調べることで、河川の様子や実態を知ることができます。今回は川上川(市民プール横)と宮川(左写真)の2地点で行いました。30年以上前に、私は仕事で水生昆虫の調査を行っ

ていました。その当時の調査と比較しながら今回の調査の報告をします。

先ず第一に当時と大きく違っていたのが河川そのものの状態です。礫の大きさや水深、流速などが調査に適していると思われるポイントを事前に選んだのですが、いざ川に入ってみると、礫の間には大量の砂が詰まっていました。何層にも礫が重なっている状態の所を探し出すことができません。昔は、調査ポイントの選定に苦労するなんてことは考えられませんでした。水生昆虫は礫の間に身を潜めたり礫表面を匍匐したり、あるいは礫の間で巣を作り、上流から流れて来る餌を待ち受けるという生活をしていますが、礫の間が砂で塞がれ巣を作ったり身を



潜めることができなくなっているの です。



水生昆虫の数も種類も昔に比べ、とても貧弱な状態になっていました。特に貧富水性(きれいな水にしか住めない)の水生昆虫は壊滅状態です。トビケラやカゲロウ、或はカワゲラの仲間の種類数・総数がずいぶん減っていました。下水道の普及で生活排水の流入が激減しているため水質は良好でのはずですが、水生昆虫にとって生活環境は劣悪の状態にあると思われます。従って、水生昆虫を餌としている魚やカワガラスなどの鳥にとっても悪い環境になっ





ていると想像できます。これは、近年続いた水害

の復旧工事のせいで川底の岩盤がむき出しの川底の所が多くなり、さらに上流での河川工事のため砂が礫の間にたまってしまった為ではないでしょうか。この状態が解消されるためには多くの時間を要すると思います。

実際に川に入って調べてみると、土手の上から川を見ているだけでは判らないことが見えてきました。特に川底の様子や、そこで暮らす水生昆虫のことなどは川へ入って直に調べることの大切さが今回の調査で明らかになりました。

※今回の調査結果について

川上川は、トビケラの数は多かったものの、他にはカゲロウ2種カワゲラ1種の4種しか確認できなかった。宮川についても種類数は少なく、中腐水性生物(汚染に強い生物)のヒルなどが確認された。この結果は30年前に比べると貧富水性の生物の種類数が圧倒的に少ない・・・つまりとても貧弱な生物相となっていると言える。

調査結果(数字は捕獲数)

宮川 (苔川合流点上流)		川上川 (市民プール横)	
ヒゲナガカワトビケラ	27	ヒゲナガカワトビケラ	84
ウルマーシマトビケラ	6	ヒラタカゲロウ sp	26
ヒラタカゲロウ sp	6	カゲロウ sp(尾3本)	12
チラカゲロウ	1	カワゲラ sp	2
カゲロウ sp(尾3本)	9	,, , , , op	
カワゲラ sp	2		
※ヒル	5		
※ガガンボ	1	※は中腐水生物	
※ミズムシ	1	ぶは中國小土物	

アサギマダラ マーキング会

小原靖子

今年度のマーキング会、8月28日は悪天候のため9月4日に延期になりました。さて9月4日の天候は?なんと台風12号が九州に上陸しようとしているとの予報・・・昨年のマーキング会のことが頭をよぎりました。昨年も延期になり、実施された日は気温が低く、講師の鈴木さんが用意してくださったアサギマダラにマーキングして終わったのです。

それでも午前中は曇りの予報で大丈夫、集まった参加者は 15 名+3 歳の葵君(松崎夫妻のかわいい孫ちゃん)が注目の的。

おなじみの柳蘭峠で講師の鈴木さんが前もって捕獲して持参されたアサギマダラ 45 頭に、自



分の名前や日付、捕獲場所を書いて放す。捕獲され2日たっているのに、ひらひらと空高く去っていく蝶は、けなげで美しい。

雲の切れ間に青空も広がり、マーキングされていないアサギマダラも姿を現す。捕虫網を片手に移動しながらスキー場に。高地トレーニングのランニングする若者たちの横、ヨツバヒヨドリの草原に蝶が何頭も飛んでいる。

全員が網を片手に、捕った、逃がした、捕まえたとの声が上がる。2頭目、3頭目、もう4頭にマーキングしたと、うれしい声が聞える。お昼ご

飯を食べていても、アサギマダラの姿が見えるとご飯中断して、捕獲に走る。午後は雲が出てきましたが、それでも時々森の中から姿を現すアサギマダラ。解散前にざっと数えたマーキング蝶は 160 頭越え(鈴木さん事前捕獲の蝶を含めて)、今年のマーキング会は大変満足な一日でした。

葵君も捕虫網片手に頑張りました。モンシロチョウ、モンキチョウ、ヒョウモンチョウなどが 虫かごに入っていました。将来が楽しみな期待の星でした。

再捕獲情報が待ち遠しい

宝田延彦

当会が「アサギマダラマーキング会」を開催したのは2007年からで、今回で10回目となります。但し、2011年は天候不良で中止。昨年は当初予定した日が天候不良で繰り延べしての開催、今年も繰り延べしての開催でした。ただ、8月28日は天候も予報が良くなかったという事もありましたが、マーキング会を指導していただいている鈴木さんが2日前(8月26日)に現地視察をした結果、肝心のアサギマダラがあまり出ていないとの判断もありました(8頭を捕獲)。



1週間後の9月2日に再び現地へ行かれたら、前週とうって変わりアサギマダラは多く出現し、50頭捕獲してマーキング会に備えられました。そしていよいよ9月4日、天気予報は午後から雨が降るかもしれないとのことでしたが、決行しました。

当日は、気温の上昇に伴い、多くのアサギマダラが現れ、移動途中の道路沿いのヒヨドリバナ



には次々と出現するので、道路端に車を止めては、 網を持って捕獲する状況でした。スキー場のゲレ ンデで早めの食事をし、3時前に現地で流れ解散 をしました。

心配していた雨は降らず、反対に日差しが強く 日焼けが心配になる天候で、終わってみると**これ** までの最高で164頭にマークしました(事前捕 獲の50頭も含む)。この中から、何頭が再捕獲 されるのか?再捕獲情報が待ち遠しいです。 今回は多くのアサギマダラにマークできましたが、いつもこうではありません。9頭しかマークできなかった観察会もありました。また天候も良く、ヒヨドリバナの状態が良くても、ちっとも出てくれない時もあります。現地へ行かなければ分からないという事です。

チャオから濁河温泉まではまだ数日楽しめます。9月中旬以降は、北から渡って来るアサギマダラを見ることになりますが、花は終わっているので、飛んでいる個体を追うという、かなり難しい捕り物になりそうです。挑戦して見て下さい。

※ 9/2 の事前捕獲された中には、再捕獲がありました。記号から 8 月 16 日に長野県美ヶ原で放蝶されたと思われます。

※宝田は観察会前、8/18 (6 頭)、8/21 (37 頭)、8/25 (2 頭)、8/28 (15 頭)、9/1 (59 頭) マークをしてきました。その内、9/1 では 8/28 に自分でマークした個体 1 頭、8/21 長野県川上村で放蝶された個体 1 頭を再捕獲しています。



・・・・今後の行事予定・・・・

 \diamond

『自然観察会』

☆乗鞍の麓・秋の里山こみち Walking

10月23日(日)

集 合:午前9時、丹生川支所(ここで乗り合わせて移動します)

持ち物:お弁当、雨具、メモ帳など

服装等:歩きやすい軽快な服装、歩きなれた靴

今年は秋の丹生川町の石仏探訪です。板殿地区を訪ねます。**くらがね通信** No.59(2015年1月)には、住さんが寄稿された「石仏の正月」で板殿地区の石仏が紹介されています。今回も住さんが案内役をして下さいますが、是非 No.59 を読んでから参加することをお奨めします。

◇開講座:『自然談話室』

☆「斐太後風土記から見た飛騨の植物」~薬草を中心にして~

(話者:河原誠二さん)

10月29日(土) 高山市民文化会館、午後7時~

森林文化アカデミー森林技術開発・支援センター勤務、森林インストラクター会岐阜の会長の河原さんにお話しして頂きます。河原さんは南ひだ健康道場の薬草園に勤めておられたこともあり、植物全般、特に本草学や薬草に関して豊富な知識をお持ちの方です。どなたでも参加いただけます。誘い合わせてご参加ください。

※各行事の問い合わせ先:松崎(0577-34-4703、ponykun0428@hidatakayama.ne.jp)

■ 会員を募集しています! 年会費 = 個人 2,000 円 家族 3,000 円 団体 5,000 円 あなたの知人、友人に入会をおすすめください

・郵便振替 00800-8-129365 振込先 乗鞍岳の自然を考える会

くらがね通信 第66号(秋号)2015年10月1日発行

発行者 乗鞍岳と飛騨の自然を考える会 〒 506-0055 岐阜県高山市上岡本町 4-218-3 飯田 洋

TEL: 0577-32-7206 • FAX: 0577-32-7207 ★ http://iidalaw.net/norikura.html

編集室では皆さんからの原稿、ご意見等をお待ちしています。

■編集責任者: 松崎 茂 E-mail: ponykun0428@hidatakayama.ne.jp TEL: 0577-34-4703

表紙写真提供: 小池 潜 印刷: 山都印刷